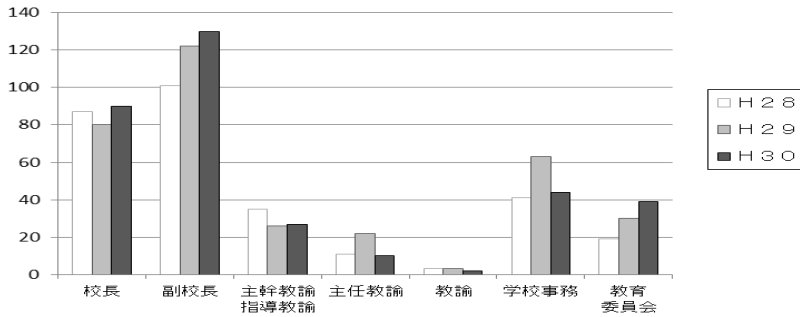


平成30年度 校務改善推進事業発表会 参加者アンケートまとめ

<参加者の内訳の推移(過去3年間)>



<考察>

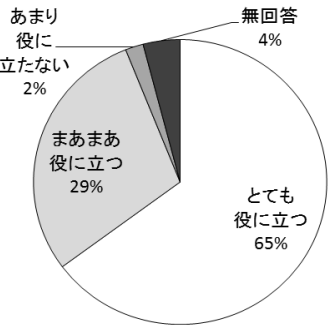
副校長の参加者数が最も多く、ここ数年増加傾向にある。次いで校長が多く、管理職が校務改善のヒントを求めていることがうかがえる。また、教育委員会の参加も増えている。

都の事業を学校現場で円滑に実施できるようにするためにも、特に副校長にスポットを当て、校務改善推進の切り口となる発表が必要である。

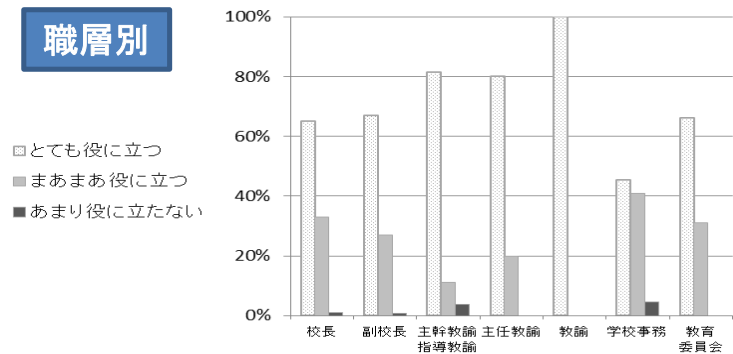
	校長	副校長	主幹教諭 指導教諭	主任教諭	教諭	学校事務	教育委員会	合計
H28	87	101	35	11	3	41	19	297
H29	80	122	26	22	3	63	30	346
H30	90	130	27	10	2	44	39	342

[1]本日の発表会の内容は、職務の役に立つか

全体



職層別

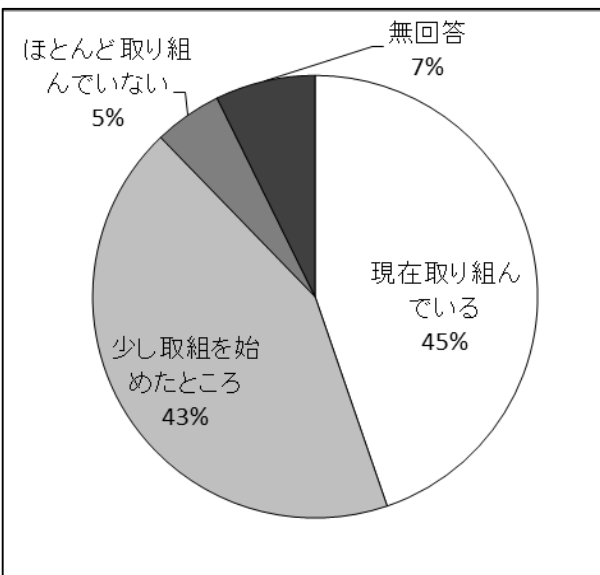


<考察>

肯定的評価が多い。実践的な事例を中心に発信し、教職員が取組の参考となる内容を継続するとともに、より多くの方に参加していただけるよう校務改善NEWS等で周知する。

	校長	副校長	主幹教諭 指導教諭	主任教諭	教諭	学校事務	教育委員会
とても役に立つ	65%	67%	81%	80%	100%	45%	66%
まあまあ役に立つ	33%	27%	11%	20%	0%	41%	31%
あまり役に立たない	1%	1%	4%	0%	0%	5%	0%
無回答	1%	5%	4%	0%	0%	9%	3%

[2]「校務改善」の取組の状況について



<考察>

「現在取り組んでいる」「少し取組を始めたところ」が9割近くを占めている。参加している多くの学校が、実際に校務改善を推進している中で発表会に参加している。

今年度は「ミドルリーダーの活躍」や「ボトムアップ」をキーワードに「ボトムアップで創る校務改善」をテーマとした。参加者にその取組内容を聞いたところ、

- ・主任教諭をリーダーとしたOJTの推進
- ・積極的なコミュニケーションの実施
- ・主幹会などの提案の場の設定
- ・校務改善について触れる自己申告の実施などの回答を得た。詳細は以下の「アンケートの自由記述より」の「1 今年度のテーマ『ボトムアップで創る校務改善』における参加者の取組事例」に掲載

〔アンケートの自由記述より〕

< 1 今年度のテーマ「ボトムアップで創る校務改善」における参加者の取組事例 >

- 何でも話せる関係づくりと雰囲気づくり。教員の話は最後まで聞き、受け止める。【校長】
- 各主任に経営方針を説明。それを基に各委員会から提案。主任に学校経営に関わる醍醐味を味わわせる。【校長】
- 全主任教諭によるミニOJT研修【校長】
- “任せる”という意識を副校長・主幹・主任がそれぞれ意識させることを考えています。ただ“任せる”でなく、80%はやって、渡し、必ず見守る、サポートすることで仕事のもれがないようにしている。【校長】
- 3回の面接の中で全職員に校務改善について必ず触れている。【校長】
- 残念ながらありません。ミドルリーダーの育成から着手する必要があります。【副校長】
- コミュニケーションを積極的に図る。OJTの骨組みづくり、取組の重点を示すなどトップダウンも必要【副校長】
- 主幹教諭と課題を共有し、提案させる→提案する機会を設ける。【副校長】
- 副校長会の研究テーマとして取り組んでいる。【副校長】
- 年度末反省、人事考課制度、面接、申告等で校務改善の意見、アイデアを吸い上げ、生かす。【副校長】
- 主任教諭の活用を意識した校務分掌組織作り。主任教諭が分掌のリーダーとなるよう組織を作り直した。【副校長】
- ミドルリーダーの意識改革をねらいとして、各組織におけるリーダーポジションの位置付けを検討している。現在各分掌から今年度の課題を挙げてもらっている。【副校長】
- ミドルリーダーとしてできるだけ職員（職員室での会話等）の声を管理職（主に副校長）に届けている。【主幹教諭】
- 経営支援部を月1回行っている。そこで課題や校務改善（みんなで使える学級事務フォルダの作成）について話し合っ、掃除・給食等の方法を共通にするなど。【主幹教諭】
- 月に一度、主任連絡会を開催し、主任教諭の意識改革と学校運営への積極的な参画を促している。【主幹教諭】
- 校務改善委員会のメンバーとして事務職員の立場から提案を行っている。（アンケートの様式改訂や作業指示のアドバイス等）【学校事務】
- 調査物を精査して事務へ移管。教材費等の私費会計を教員から事務へ移管【学校事務】
- 副校長連絡会を活用した現状と課題の把握と施策の提案【教育委員会】
- 人事考課制度の自己申告の中に、校務改善に関する目標と具体的な取組を明記させ、年間を通して、実践するよう指導・支援していく。【教育委員会】

< 2 校務改善の取組における課題 >

- 膨大かつ多岐にわたる校務の洗い出しと整理。「ちょっとは改善」を大切に意識改革【校長】
- 多種多様な副校長業務を洗い出して精査することと詳細な役割分担の明確化。副校長自身はもちろん、教員も、何でも副校長という意識から、脱却させること【校長】
- 学校経営補佐の配置を拡大することを期待します。スクール・サポート・スタッフの配置を拡大してほしい。【校長】
- 信頼感で結ばれたミドルリーダーの育成が大切かと思います。【校長】
- 私費会計に関する業務は大変教員の負担になっています。特に、未納者についてどのように接するか、どう解決していくかが問題であり、課題であります。【副校長】
- 主任教諭、ミドルリーダーの育成をする時間の確保【副校長】
- 会議の精選が必要。計画、見直しをもって会議を行う。教員が「人が足りない」「人をつけてほしい」と人材確保や人員配置への認識が低い。人をつければよいという認識から、人をつける前に校務を見直すことへの意識改革が求められる。【副校長】
- 情報の共有や事務職員の支援の成果もあるが、さらにミドルリーダーの活躍できる分掌組織づくりや私費会計徴収金システム等々まだまだ改善していけることがあると思う。【副校長】
- 人が変わっても続けられるシステムを作ること。【副校長】
- それぞれが担当する業務をリスト化して精査していく必要を感じている。【指導教諭】
- 若手が多い職場なので、つい長時間仕事をする様子が見られる。スクール・サポート・スタッフの活用、タイムマネジメント等、働き方に対して意識を変えていく必要がある。【主幹教諭】
- 「誰かが行くだろっ…」という考え方をする教職員がいる。それぞれが「自分が主体となって行ってみよう！」という思いで取り組めるとよいと考えている。【学校事務】
- 所管の各校で様々な取組を行っているところであるが、事業を導入している学校の取組を普及できていない現状がある。【教育委員会】

< 3 今後取り上げてほしいテーマ等 >

- 次年度校務支援のソフトが導入されます。先進的に取り組んでいる区や市がありましたら、是非紹介してください。【校長】
- 具体的なミドルリーダーの活躍例の紹介【校長】
- 出退勤システムの活用の仕方。スクール・サポート・スタッフの活用の仕方【副校長】
- ボトムアップの視点とてもよかったです。管理職のリーダーシップとの兼ね合いの発表をお願いしたいです。【副校長】
- 校務のクラウド化【主幹教諭】
- 各職ごとの校務改善事例があれば、取り上げてほしい。【学校事務】
- スクール・サポート・スタッフについて、現場では制度の情報が足りていないので今後も取り上げてほしい。【教育委員会】

< 4 青梅市立若草小学校の発表に関連して >

- 私費会計システムについてもう少し聞きたいと思いました。【校長】
- 「副校長が自由に動ける時間をつくる」「副校長にしかできない仕事に専念させる」は大いに共感する。【副校長】
- 学校経営補佐を導入することにより、本来の副校長の職務を行う（調査的な職務より解放されて、クリエイティブな学校経営計画への実現にむけての取組を行う）ことができるようになる。副校長の意識改革と、学校経営補佐の導入、統括校長の手腕がすばらしい。【副校長】
- とても参考になりました。とりあえずフォルダ、事務方でも使えそうです。【教育委員会】
- どの報告も参考になったが、特に学校マネジメント強化モデル事業の報告は特に有意義なものであった。現場、特に副校長の業務負担軽減を今後も検討しなければいけない。【教育委員会】

< 5 あきる野市立五日市中学校の発表に関連して >

- 五日市中のスクール・サポート・スタッフ、小中の違いはあれども、スクール・サポート・スタッフがいたほうがより改善されると感じた。ミドルリーダーの育成は本校でも課題である。【校長】
- 校長が経営支援を熟知しているリーダー性がある手紙がとても良い。【副校長】
- 保護者へ定時退勤日を知らせるのも一つの手だと思いました。【副校長】
- 都事務の在り方が校務改善の大きなカギになると改めて思いました。【副校長】
- 校務改善の基盤は「情（おもいやり等の心）」だと考えている中、五日市中学校の取組「新採の方の家族への手紙」は、私も真似したいと思いました。本日はありがとうございました。【主幹教諭】
- 五日市中学校の事務さんの仕事分担が興味深かった。【教育委員会】

< 6 品川区立第三日野小学校の発表に関連して >

- 学年主任時間コントロール、定時退勤、実施状況の確認は取り入れてみたい。【校長】
- 校長先生の想い校務改善が伝わり大変参考となりました。今日は有意義な会に参加させていただきました。ありがとうございました。いい企画でした。【校長】
- 黙々タイム等は、私自身感じていたことですが、なるほどと思いました。主任レベルでも、一定の決定権をもたせよということで、自ら主体的に行動しようとする姿が見られてきたということはすばらしいと思います。全てのことにおいて、“見える化”を実践していることが分かり、本校でも生かしていきたいと思います。【副校長】
- 具体的な取組を伺うことができて良かった。「どうしましょう？→こうしましょう。」全員がこの認識で取り組めば、ボトムアップができてくると思う。【主幹教諭】

< 7 校務改善推進事業発表会の感想 >

- ボトムアップのためには、経験や能力の差はあっても参画意識を高めること、自信や達成感を味わわせることが重要だと考えている。各校の校務改善の取組が参考となった。【校長】
- 様々な学校の状況に合った校務改善を行っていると思った。特にスクール・サポート・スタッフの活用についてのパンフレットは興味深い内容だった。【副校長】
- 学校経営補佐、スクール・サポート・スタッフを有効活用する。ボトムアップを通して教員の意識改革を図っていく。ちょっとした具体的なアイデアがとても参考になりました。本校の実態にあわせて、やれるところから実践していきたいと思いました。【副校長】
- 3校の校務改善の具体策を分かりやすく発表していただき大変参考になりました。本校も少しずつ取組を始めようとしているところなので、真似できることや可能などからボトムアップとして取り組めたらと思います。【主幹教諭】
- 事務職員の役割に関する内容も多く参考になりました。【学校事務】
- スクール・サポート・スタッフの活用事例が役に立ちそうです。「どうすれば活用してもらえるか」を考えるのは、事務職員でもできます。工夫できる要素が多くみられ、本校でも提案してみようと思います。【学校事務】
- 働き方改革推進プランの策定に向け検討会で協議をしている。本日の学びを、その場で生かしていきたい。【教育委員会】